

耳鼻咽喉科外来における 嚥下障害スクリーニング項目の検討

対象：75歳以上の外来通院患者でのどの症状を訴えた81名

方法：①アンケートによる問診

②反復唾液のみテスト

③嚥下内視鏡検査

嚥下内視鏡により誤嚥群26例、喉頭侵入群21例、正常群34例に分類

正常群と誤嚥群間においてロジスティック回帰解析

自覚症状による影響度の高い変数と予測確率

自覚症状による誤嚥群である予測確率

正常群／誤嚥群（正分類確立：88%）	オッズ比
食事時間の延長	255.49
嚥下時に頸部前屈	146.34
痰がのどにからむ	39.7
のどに違和感がある	16.69
痰が増えた	5.115
食事中にムセる	4.232
食事中に痰が出る	0.429
口腔内が汚い	0.239

	正常群／誤嚥群（n=60）			
食事時間が延長	+	86.7%	-	28.9%
嚥下時に頸部前屈	+	83.3%	-	26.2%
食事中にムセる	+	75.0%	-	22.2%
食事中にセキが出る	+	76.9%	-	34.0%
口腔内が汚い	+	86.7%	-	42.1%
痰がのどにからむ	+	62.2%	-	13.0%
のどに違和感がある	+	60.0%	-	26.7%
痰が増えた	+	56.1%	-	15.8%